

プロジェクト名	島根大学発:持続可能な医療提供体制と医療人材育成のための研究プログラム	
代表者	医学部附属病院総合診療医センター、助教、坂口公太	
達成に資するSDGs目標	SDG3(健康と福祉)、SDG10(不平等の是正)、SDG16(公正な制度)、SDG4(教育)	
プロジェクトの意義、成果及び波及効果	本プロジェクトは、島根大学医学部附属病院総合診療医センターを基盤として、医療人材の育成と医療提供体制の強化を統合的に推進し、地域における安心・安全な医療の実現を目指すものである。 本センターは、地域医療機関との広範な連携ネットワークを背景に、診療・教育・研究を一体的に展開しており、地域医療における多様な課題に対して、実臨床に根ざした課題設定と迅速な研究展開を可能としている。本プロジェクトでは、こうした総合診療の実践から生じる課題を研究へと昇華し、その成果を教育および臨床現場へ還元する循環型モデルの構築を目指す。 具体的には、地域における医療人材育成モデルの評価、医学教育に関するビブリオメトリクス研究、医師のウェル・ビーングに関する国際比較、専門医選択における個人特性および社会経済的要因の分析、離島における医療・介護需要と病院経営構造の検討など、複数の研究領域を横断的に統合し、医療人材の育成・配置および医療提供体制に関する課題を多角的に解明する。 これにより、医師のキャリア形成と地域医療システムの最適化を同時に推進し、質の高い持続可能な医療提供体制の構築に寄与する。 本プロジェクトの特徴は、以下3点である。 ①医療人材育成と研究活動を一体化した教育・研究モデルの確立 ②地域医療機関との連携による実装可能性の高いエビデンス創出 ③若手医師の研究参画を通じた持続可能な研究基盤の形成にある。 既に本研究領域においては、Q1国際誌(Journal of General Internal Medicine等)への論文採択実績を有し、複数の研究が並行して進行していることから、本プロジェクトにおける論文創出の実現可能性は極めて高い。 本研究は、医療人材と医療提供体制の双方に介入する統合的アプローチにより、地域住民に安心・安全な医療を提供する基盤の強化に直接的に寄与するものであり、SDG3(健康と福祉)、SDG10(不平等の是正)、SDG16(公正な制度)、SDG4(教育)の達成に資する。また、本学における教育・研究・地域貢献機能の高度化を同時に推進する点において、大学の戦略的機能強化にも大きく寄与する。	
実施体制	担当部局名・職名・氏名	役割
	総合診療医センター・客員教授・白石吉彦	本プロジェクトの統括責任者として、総合診療医センターの運営基盤を活用し、研究・教育・地域医療の統合的推進を担う。研究全体の方向性の策定および組織間連携の調整を行う。
	京都大学・准教授・和足孝之	研究全体の学術的統括および研究デザインの高度化を担当する。多施設共同研究の推進、研究計画の精緻化、ならびに国際的視点からの指導を行う。
	横浜市立大学・准教授・金子惇	量的研究および統計解析を担当する。特に地域医療・医療提供体制に関するデータ解析を担い、研究の方法論的妥当性を担保する。

	奥出雲病院・総合診療科部長・ 遠藤健史	地域医療現場におけるデータ提供および研究実装を担当する。地域医療機関との連携を通じて、研究成果の実践への還元を推進する。
	University of Michigan・ Professor・Sanjay Saint	国際共同研究者として参画し、研究成果の国際的妥当性の確保および論文文化支援を担当する。特に医療安全および患者アウトカム研究に関する専門的助言を行う。